

令和3年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
うきは幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、「目指す子どもの姿」「保育方針」を掲げ、年間目標、指導計画を作成している。「養護と教育の一体性」を重要視し、一人ひとりの子どもの発達を踏まえたうえで、年間計画、月間計画、週案を立て、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、また保育内容がより充実するよう努めている。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、異年齢の活動を制限することが多く、戸外での関わりが主となった。園内の行事に関しても、場所や時間帯、人数制限など、それぞれに合わせて方法を検討しながら行った。 一人一人の発達に応じた保育のねらいや環境の設定を行い、保育に取り組み、個々の発達や支援につながるよう努力した。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	若い保育士の新しい発想やベテラン保育士の豊富な専門的知識、技能をうまくかみ合わせながら日々の保育に取り組んでいる。 また、毎日のケース会議で保育を振り返り、更なる知識の習得と技術向上に生かせるようにしている。それぞれの得意分野(リトミック、体育遊び等)を見出し、各々の保育力を生かし、互いを高め合えるよう、取り組んだ。
IV 保護者への対応・支援	職員全員が守秘義務を遵守し、保護者の立場を尊重している。 家庭と対等な関係を築いて互いに協力しながら子どもの育ちを支え、成長や喜びを共有していきたいという考えのもと、保護者支援に力を入れている。 必要に応じて保護者面談を行いながら、常に子育ての悩みや不安な気持ちに寄り添い、支援につなげていった。 また日々の保育の様子は連絡帳アプリを通して豊富な情報発信を行い、家庭と園が子どもの育ちを共有できるように努めている。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	幼老連携の取り組みとして、同じ敷地内の老人施設への訪問を行っていたが、今年度はガラス越しに踊りを披露したり、手を振ったりなどしながら、互いが刺激しあえるように心掛けた。 また、例年行ってきた地域との関りとしての近隣のデイサービスや老人ホームへの慰問、園庭開放は、昨年同様の理由で休止している。 新型コロナウイルス感染対策を行いながらの交流の形を模索している所だが、今後はメディアを通しての活動ができるよう工夫していきたい。
6 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人全体の研修を含め、市内の年齢別研修、園外の研修などに積極的に参加し、職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境作りに努めている。 また、入職した職員を対象として保育方針説明会を行い、保育に対する考えの共有を図っている。職員全体では、外部のオンライン研修を受講し、キャリアアップに努めた。